



平成23年度いわき市総合教育センター

「教育実践研究発表大会」のご案内

甚大な被害を被った3月11日の東日本大震災から、8ヶ月が経とうとしていますが、放射能問題が加わり今なお先行きが見えない不安な日々が続いています。

そのような中、子どもたちを支え、励まし、明日の希望を示し続けてきた先生方の力は大きいものでした。力強く明日への一歩を示した校長先生、常に子どもの心に寄り添った教職員、日常の学校生活が子どもたちを支え続けたといっても過言ではないでしょう。

今こそ、教育の力が求められています。…次の世代を担ういわき子どもたちを力強く育てていくために何が必要か…改めて、私たち教職員は何を為すべきかを問う大会としたいと考えています。

大会テーマ

「今こそ、教育の力を～子ども心に寄り添い続けよう～」

□ 期日 平成24年1月28日(土)

□ 会場 いわき明星大学 AV大講義室

□ 内容

○ シンポジウム

- ・ いわき市立植田小学校
- ・ いわき市立四倉中学校
- ・ 「教員の意識調査」から いわき市総合教育センター
- ・ 「生徒会サミット」に参加して 生徒会会長代表

○ 講演 兵庫教育大学 教授 富永 良喜先生

数多くの方の参加を
お待ちしております！
参加の申込みについては
追ってお知らせします。



「不登校対策講座②」講義より

= 登校行動の4条件 =

1. 登校規範
 - ・ 病気でない限り休んじやいけない。
2. プラスの学校体験
 - ・ 学校に行くと何かいいことがある。
3. 心のエネルギー
 - ・ よし、やるぞ！元気の素
4. 社会的能力
 - ・ 折り合いをつける力

この力がなくて不登校になっている子が多い！

= 現状改善思考では =

- ・ 現状の延長にし
か答えがない。
- ・ 最初の方向性自
体に問題があった
場合は、その延長
にも問題が起きて
しまう。

現状

発達障害のある子どもの指導にあたって

=TEACCHプログラムの紹介=

自閉症児のための支援の工夫として取り上げられる指導法の1つです。広汎性発達障害やアスペルガー症候群等の子どもにとっても有効です。

子どもの実態に合わせ、指導法の一つとしてご活用ください。

1. 空間の構造化(物理的構造化)

→目で見てわかりやすい環境を整える。

- ・ 教室や生活空間を物理的に仕切って色分けする。
- ・ 1場所を1目的に使用する。「この場所は○○するところ」を分かりやすくする。

2. 時間の構造化(スケジュールの構造化)

→いつ終わる？次に何をやる？

- ・ スケジュールを事前に提示する。
- ・ 現在どの位置にいるのかが常にわかるようにする。
- ・ 「はじめ」と「終わり」を提示する。「時間に対する見通し」を持たせる。

3. 作業の構造化(ワークシステム)

→作業課題に対する構造化

- ・ 作業課題を行う際に、どんな作業をどのくらいやって、終わったら何ができるかといった情報を分かりやすく提示する。
- ・ 作業に自発的に取り組める環境を作る。又は作業自体を分かりやすく構成する。

4. 手順の構造化(ルーティン)→課題の組織化

- ・ 同じパターンで繰り返し覚えられるような分かりやすい順序にすること。

(例) 左から右に、上から下に、道具を出して作業をして道具をしまう。

5. 視覚的構造化→視覚的な手がかり

- ・ あらゆる情報を目で見て分かるようにする。

(例) スケジュールを図示する、作業の流れを絵で上から下に表示する、絵カードによるコミュニケーションを教える。

* TEACCHプログラム…エリック・ショプラー考案

「不登校対策講座②」受講生の感想より

- ◆ 不登校への小さな芽を見逃さずに、計画的に指導にあたることや子どもたちの行きやすい学校にするための工夫などについて参考になった。
- ◆ 不登校対策がなかなか思うようにいかない中、研修に参加し、もう一度生徒の気持ち、想いを理解し、本気になって取り組む意欲がわいてきました。明日から担任、学年教師と組織の力を生かして生徒に接していきたい。

